

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

October 10
2023

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2023年10月1日発行（毎月一回1日発行）第790号

● 出会い・本・人

マンボウ先生との出会い 上田恵介

● 特集シリーズこの三冊！

ルネサンス以前のキリスト教美術史を学ぶならこの三冊！ 瀧口美香

● 本・批評と紹介

富坂キリスト教センター編／山下明子、山口里子、大嶋果織、堀江有里、水島祥子、工藤万里江、藤原佐和子著

日本におけるキリスト教フェミニスト運動史 今給黎真弓

春名純人著 カルヴァンの救済の神学 市川康則

平塚敬一著 凜として生きる 森島 豊

アドルフ・フォン・ハルナック著／津田謙治訳 マルキオン 片柳榮一

齋藤 篤、竹迫 之著／川島堅二 監修

わたしが「カルト」に？ 紀藤正樹

水草修治著 私は山に向かって目を上げる 牧田吉和

山口里子著 マルコ福音書をジックリと読む 橘 秀紀

ルイ・ギグリオ著／田尻潤子訳

「敵」に居場所を与えるな 川上直哉

大貫 隆著 グノーシス研究拾遺 荻野弘之

既刊案内

書店案内

内村鑑三 闘いの軌跡

9月25日

関口安義著 内村の激動の生涯を実証的な調査に徹して描き切った評伝大作。著者は芥川龍之介研究から出発し、芥川人脈に連なる多くの知識人の評伝をものしてきた。本書は『評伝矢内原忠雄』に次ぐ著者のライフワークであり、遺作となった。

◆ A5判・定価7975円

カール・バルト

神の自由な恵みへの賛美！

好評



カール・バルトの肖像

《教会教義学》の世界

寺園喜基著

邦訳で36巻に及ぶ、20世紀の神学的記念碑ともいうべき《教会教義学》の内容を、一般読者に向けて平易に解説。神学自体への無二の入門書でもある。

◆ 四六判・定価3080円

日本におけるキリスト教 フェミニニスト運動史

1970年から2022年まで

大反響



富坂キリスト教センター編 この半世紀余の激動の時代を、詳細な年表と解説、コラム記事で丹念に辿る。また4人の女性の証言とインタビュー、さらにメディア表象、女性への按手の進展、結婚式文の問題、異性愛規範への抵抗など6つの重要課題を考察。

◆ B5判・定価2750円

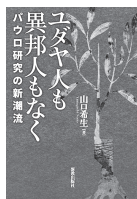
ユダヤ人も異邦人もなく

山口希生著 パウロ研究の新潮流

パウロの宣教とは？

信仰義認を重視する従来のパウロ理解に異議を申し立て、新約学界で激しい議論を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(NPP)を徹底解説。

◆ 四六判・定価2475円



ユダヤ人も異邦人もなく

牧会書簡

現代新約注解全書

9月25日

辻 学著 (つじ・まなぶ氏は広島大学教授)

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の3書簡を徹底的に読み解いた世界最高水準の注解書。『福音と世界』に70回にわたり連載された内容に加筆を施し、優に700頁を超える大冊として堂々完成。邦語で類書のないきわめて貴重な労作。

◆ A5判・定価9900円



マンボウ先生との出会い

上田恵介

子供の頃から本好きの少年だった。父は尋常小学校しか出ていなかったが、子供版の「世界文学全集」や「日本文学全集」などを、やたら買ってきてくれて、さらに私が生き物好きだと分かったので、家の本棚にはファーブル、シートンから「ドリトル先生物語」まで並んでいた。本に恵まれていた子供時代だった。

中学では科学部に入っていたので、天文や生物関係を中心に、図書室にあった科学系の本を手当たり次第読んでいた。高校時代、岩波新書は分野に関わらず、よく読んだ。

3年生になって、そろそろ進路を決めねばならない頃、北杜夫の「どくとるマンボウ」シリーズに出会った。その中の1冊、『どくとるマンボウ青春記』が、強いて言えば私にとって、人生を決めた出会いの1冊である。

この本は若き北杜夫が旧制松本高校（現信州大学）の寮に入って過ごした青春の日々の物語である。旧制高校のパンカラ

生活を面白おかしく描いた内容で、寮で馬鹿騒ぎをして、デカンショ節を歌い、山に登り、昆虫を追いかけて（彼も昆虫マニアであった）という自由奔放な学生生活が描かれている。

「ストーム」や「コンパ」という言葉は、この本で覚えた。デカンショ節のデカンショがデカルト、カント、シヨウペンハウエルの略だというのも、この時知った。だから大学は寮のある大学を選んだ。寮に入って、北杜夫のような学生生活を送りたいと思ったからである。まったく単純すぎる動機である。

私が大学に入学した1969年は学生運動はなやかなりし時代であった。大学の講義はかなりサボったが、デモや集会にも参加しつつ、本だけは随分読んだ。それが私の人生の力となっている。もしあの4年間の寮生活がなかったら、今の私は、多分、別の生き方をしていただろう。「どくとるマンボウ青春記」は私にとって出会いの1冊である。

（うえだ・けいすけ 立教大学名誉教授、日本野鳥の会会長）



▼シリーズ この三冊！

ルネサンス以前のキリスト教美術史を学ぶならこの三冊！

瀧口美香

(たきぐち・みか・明治大学商学部専任准教授)

二〇二二年から二三年にかけて、スコットランド国立美術館、ドレスデン国立古典絵画館、ルーブル美術館など、ヨーロッパの主要美術館が所蔵する作品を日本で公開する展覧会がいくつも開催されてきました。こうした展覧会には、必ずといっていいほどキリスト教をテーマとする作品が含まれています。作品情報(主題、作者、制作年、注文者、制作当時の時代背景など)について知りたければ、作品のキャプション、イヤホンガイド、展覧会カタ

ログの解説などが参考になります。

それでは、展覧会に出品されている作品にとどまらず、キリスト教美術全般についてもっと知りたいと思った時には、どのような本を手に取りればよいでしょうか。聖書の中のどの場面を表す作品なのか知りたいなら、山形孝夫『図説聖書物語旧約篇』や『同新約篇』の図版付きの解説があります(いずれも河出書房新社)。さらに、歴史の流れに沿ってどのようにキリスト教美術が展開していったのかを知りたい場合

には、西洋美術史の概説書が役に立ちます。たとえば、水野千依編『古代から初期ルネサンスまで』や『盛期ルネサンスから十九世紀末まで』(京都造形芸術大学東北芸術工科大学出版局藝術学舎)などです。こうした書物をひもとくことで、展覧会場で見かけたあの作品が、キリスト教美術の大きな流れの中でどのように位置づけられるものなのか、さらに理解を深めることができるでしょう。

残念なことに日本で紹介されるキリスト教美術というと、どうもルネサンス以降の西ヨーロッパの美術に置きが置かれる傾向があります。キリスト教美術には、ルネサンスのはるか以前にまでさかのぼる長い歴史があるので、その源まで立ち戻って全体の流れをたどる書物を書くというのは、なかなか容易なことではないからです。また、ロンドンやニューヨークで、中世

キリスト教美術、ビザンティン美術を取り上げる大きな展覧会が開催されることはあっても、日本でそのような展覧会が開かれることはほぼありません。そこでこのコラムでは、キリスト教美術史を学びたい皆さまに、日本ではほとんど触れる機会のない、ルネサンス以前のキリスト教美術について語る三冊をご紹介します。

一点目は『初期キリスト教美術・ビザンティン美術』(ジョン・ラウデン著、益田朋幸訳、岩波書店)です。著者のラウデンは、ロンドン大学コーールド美術研究所で教壇に立っていた人で、ビザンティン写本挿絵研究の第一人者です。本書では、写本挿絵のみならず建築、壁画、イコン、象牙彫、七宝、金銀細工など数多くの作例が取り上げられ、千年に及ぶビザンティン美術の歴史が語られています。ページをめくりながらカラーの図版を

眺めてみるだけで、いわゆる名画でたどるキリスト教美術の本とは大きく異なる印象を持つことになるはずです。

本書の構成は、「イコノクラスム以前の美術」「イコノクラスム」「ビザンティン美術の拡散」という大きく三つに分けられているのですが、その理由には、イコノクラスム(聖像破壊運動)という出来事が、ビザンティン帝国におけるキリスト教美術の流れを、いったんスッパリと断ち切ってしまったからです。ラウデンは、この聖像破壊論争が、後のビザンティン美術の方向性をいかに決定づけたかという点に注目することで、ビザンティン美術の本質を捉えようとしています。

ラウデンはまた、ビザンティン美術の本質が、ルネサンス以降の「芸術の進歩」という概念とは相いれないものであることを強調します。わたしたち現代人の常識から考えて、歴史の流れ

の中で世界が変化しないということは、ほとんどありえないことですが、ビザンティン帝国の世界観とは、神の代理人である皇帝を頂点とした地上世界は天上の神の国の写しであり、したがって地上の帝国の秩序は変化なく永遠に存続していく、というものでした。したがってビザンティン美術は、そのような理念のもとに作られたものであり、この点において西洋中世の美術やルネサンス以降の美術とは大きく異なっています。

二点目は、『図説 中世ヨーロッパの美術』(浅野和生著、河出書房新社)です。浅野は、トルコでキリスト教建築の発掘調査に長年携わっていた人です。本書は、そもそも中世とはどこからどこまでを含む時代で、中世美術とはどのような特質を持つものだったのか、というところから始まります。本書の一番の特徴は、西洋美術史の概説

書にありがちな、年代ごと（様式ごと）の章立てではないという点です。カロリング朝の美術、オットー朝の美術、ロマネスク美術、ゴシック美術という順序ではなく、都市ローマの聖堂と装飾、カテドラル建築（ケルンやピサなど）、てのひらサイズの小さな七宝や象牙、そして中世特有の聖人信仰という章立てで展開していきます。中世の建築が多く残されている都市を訪れる章や、中世以来現代にまで引き継がれてきた修道院を訪れる章を読んでいると、著者とともに中世の町中をあちこち歩き回っているかのような感覚にとらわれます。

また、美術作品や絵画技法の解説にとどまらず、当時の人々のありようや美術との接点を浮かび上がらせる記述が散りばめられています。たとえば、芸術の寄進者となった支配層、数十年（あるいは数百年）におよぶ大聖堂の

建築作業を寄進によって支えた人々、病の癒やしを願って聖人により頼んだ人々、戦争や略奪に苦しめられた人々、国王と対立するほどの権力を手にした司教、僧房に暮らす修道士たち、工房で制作に携わる職人や画家、聖地へと旅する巡礼者、地中海をまたぐ異文化の交流。そのような社会において、中世の人々がキリスト教の信仰のために芸術をどのように作り上げ、また受容していたのかという点が、多くのカラー図版とともにわかりやすくまとめられています。

三点目として、筆者の近著『キリスト教美術史 東方正教会とカトリックの二大潮流』（中央公論新社）をご紹介したいと思います。本書は、上に紹介した初期キリスト教美術とビザンティン美術、そして西ヨーロッパ中世のキリスト教美術、その両方を含む構成で、かつ両者の違いを対比する視点

を持って書かれたという点が特徴的です。

ローマ帝国時代、キリスト教美術は信仰の表明や葬礼を目的として成立しました。やがて四世紀末に帝国は東西分裂し、ここからキリスト教美術の二つの潮流が生まれることとなります。一方は、千年以上の長きにわたり不変であることを誇った正教会の美術。他方は、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロックと様式が変転していったローマ・カトリック教会の美術です。

本書は、従来の西洋美術史の概説書と同じく、古い時代から順に時系列で話を進める通史の体裁をとった章立てではありませんが、単なる美術様式の歴史にとどまらない記述を目指しました。概説書によくあるような、様式の歴史を時系列に沿って語るやり方、あるいは西洋史の流れの中に美術作品をあてはめて語るやり方ではないということ

です。それよりも、一つひとつの作品

それ自体と正面から向き合うことを重視しました。何が描かれているのか、なぜそのように描かれたのか、作品はどのようなメッセージを伝えているのか。そのような問いを立てることで初めて見えてくる、キリスト教美術が持つ根源的な力に触れるような書物にし

たいと願ったからです。

初期キリスト教美術とそれに続くビザンティン美術（ラウデン）、そこから枝分かれしていった時代の西洋中世美術（浅野）、その両方を対比しつつ、キリスト教美術の流れを源までさかのぼって見渡そうとする本書。この三冊を読むことで、ルネサンス以降の名画

を並べた西洋美術史の本からは見えてこない、キリスト教美術のエッセンスに触れることができるでしょう。そして、今後展覧会に出かけてキリスト教絵画を見かけた時、これまでとは違った見方ができることに気づくはずですよ。

『初期キリスト教美術・ビザンティン美術』

ジョン・ラウデン：著
益田朋幸：訳
岩波書店
2000年刊
B5変形 448頁
5,280円



『図説 中世ヨーロッパの美術』

浅野和生：著
河出書房新社
2018年刊
A5変形 136頁
1,980円



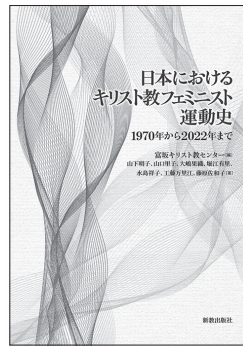
『キリスト教美術史』

—東方正教会とカトリックの二大潮流—
瀧口美香：著
中央公論新社
2022年刊
新書判 224頁
1,056円



「女たち」の運動が 確かに刻まれて！

〈評者〉今給黎真弓



日本におけるキリスト教
フェミニスト運動史
1970年から2022年まで
富坂キリスト教センター編
山下明子、山口里子、大嶋果織、
堀江有里、水島祥子、工藤万里
江、藤原佐和子著



これほどまとめられ、整えられた本が出版されたことに感謝したい。キリスト教界に確かに存在していた女たちの運動の足跡が、歴史として、ある程度まとめられ記録されている。組織や形にとられない自由な生き活きとした女たちの運動は、その時・その場のひとりひとりを生かすが、記録に残ることが少ない。研究会チームは、各教派に残された文書を丁寧に掘り起こし、運動に関わった人々に聴き、女たちが何を問い、何と闘い、何をめざしてきたかを記している。

本書第一部では、1970年から2022年までの年表（キリスト教界と社会の動きが並記）が記され、10年ごとの解説とその時代の課題が提示されている。ひとりの女が、それまで「当り前」としていたことに疑問を抱き、言葉化し、個人の問題に留めずに、声を上げていく。そこに呼応


学との出会いや、何に抵抗し、誰と活動してきたか、その評価とこれからのキリスト教会への思いや次世代に伝えたいことを中心としている。講演録は、「沖繩」「在日」におけるフェミニズムの視点が記されている。自分史が抵抗運動の歴史となつていくようなそれぞれの物語からは、その時の痛みや共闘のわくわく感、しなやかに強く生きる空気が伝わってくる。

第三部「課題を掘る」では、①『福音と世界』におけるジェンダー／セクシュアリティ表象、②NCC加盟教会における女性の按手、③天皇制・キリスト教・女性、④フェミニスト神学、⑤結婚式式文、⑥異性愛規範に抵抗する〈女たち〉の連帯と題し、6人研究者たちの論考が載せられている。いずれも改めて現在の課題であることを思わ

する者たちが集まり、構造を変えていこうとする運動の起りをみることが出来る。また性別二元制の中では被抑圧者であった女たちが「性的マイノリティ」と括られる人々との関わりの中では、抑圧者の側にいるのではないかとの気づきが与えられる等、被害者性と加害者性の両方に向き合わされていく。キリスト教の家父長制と異性愛主義の中で起こされた女たちの気づきと連帯が、それぞれの教派、さらにキリスト教界の変革につながる期待を持つことが出来る。また、50年間の振り返りの座談会の中では、課題の抽出とともに「フェミニストとは何か」が語られているが、定義づけではなく多様な解釈が述べられ、まさにフェミニスト運動の多様性を表している。

第二部「それぞれの経験」は、2人へのインタビューと2つの講演録からなる。インタビューは、フェミニスト神学され、読めば読むほど、言葉の宝を見出す。

本書の発行までに、著者たちの運動と研究の深みに加え、多くの（限定されていると言いつつも）文書の分析にどれだけの時間がかかれたらと思う。またそこに呼応し、寄せられた声や文書があったのではないかと想像する。この本の発行自体もまた、女たちの運動のひとつの成果ということが出来るのではないだろうか。自分の立つ場を再確認させられ、何を見、どのような言葉を見出し、誰と繋がっていくかを考えたいと思わせる「使える1冊」である。（いまぎれ・まゆみ 日本バプテスト連盟豊中バプテスト教会牧師）
（B5判・二二六頁・定価二七五〇円・新教出版社）

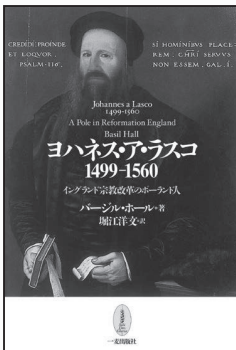


ヨハネス・ア・ラスコ

1499—1560

イングランド宗教改革のポーランド人

バージル・ホール
堀江洋文*訳・解題



初の評伝！

カルヴァンの理想を
実現させた宗教改革者。
日本の長老制をとる教会の
源流がここにある！

四六判変型・上製
定価【本体2,200+税】円
ISBN978-4-86325-095-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

パウロ書簡の註解に学び キリスト者の希望に生かされる

〈評者〉 市川康則



カルヴァンの救済の神学
救いの恵みの漸層法
春名純人著



評者は本書の出版を知ったとき、驚きと感動を覚え、思わずアーメンと唱える思いがした。著者は五年前に同じ出版社から『キリスト教哲学序論——超越論的理性批判』を公刊されたが、その「あとがき」で、同書を「遺作のつもりで」執筆されたこと、著者の「生涯の主題研究の結論としたい」ことを表明された(四七三頁)。評者は逆に、それが著者の遺作にならないことを願ったが、今春、この願いが叶えられたことを痛感した次第である。

ここに紹介する著作は(右記前著と共に)、著者の積年の研究の一大結晶、また帰結である。著者は周知の如く、A・カイパー、H・ドイヴェールト、C・ヴァン・ティルらによって明示されたキリスト教有神論的世界観・人生観に堅く立つ哲学研究者であるが、此度の著作は、主にローマ書八章後半における使徒パウロの激励に満ちた教え

についての宗教改革者カルヴァンの註解書の研鑽、またそれに基づいた著者自身の当該箇所についての研究の成果を遺憾無く証明している。

本書執筆の動機および背景は、公共的、普遍的には新型コロナウイルス禍、ウクライナ戦争などに象徴される自然界と人間社会における惨禍であり、個別的、特定のには続いて起こった御夫人および著者御自身の怪我や病氣と加療である。著者はこの時改めてカルヴァンのローマ書註解(ラテン語第三版)の当該部分を独習し、神の子らの現在の艱難辛苦が実に主イエス・キリストにある神の全体的支配と導きの中に確かに置かれていることを確認した。著者御自身の病苦も地球規模の災禍も確かに神の計画と支配の中にあるがゆえに、将来に向かうための希望と力があるわけである。

本書の一大特徴、また中心的確信(確認)事項は、副題

とされている「救いの恵みの漸層法」である。漸層とは一段ずつ確実に上がっていく歩み方を指すようだが、本書においては、語句を重ねて用い、結末を強調する修辭法の一つである。永遠における神の予定、歴史におけるキリストの贖いとキリストへの信仰による義認、聖霊に導かれた聖化とその中での堅忍、そして歴史の向こうにある終末の完成・栄光化——キリスト者の試練や苦悩を含め、すべての出来事はキリストにある神のこの確かな導き(恵みの漸層法!)の中に置かれており、それゆえに失望、挫折、諦めに終わることはないのである。

神学研究に僅かながら携わった評者が大いに驚き喜んだのは、哲学者である著者がカルヴァンの註解書を用いて聖書本文の研究に取り組まれたことである。著者は有神論的

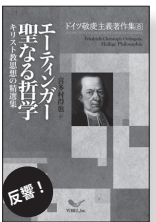
世界観・人生観という正に宗教改革的原理に堅く立ちつつ、様々な試練の中で力強く哲学研究に取り組んで来られた。評者は本書を学ぶことにより、著者の体験と世界の出来事を(それゆえ評者自身の今後の体験も)全体的、統合的に神の救いの恵みの漸層法において捉えるべきことを痛感させられた。哲学研究も、神学研究も、これらの基礎とも言うべき聖書研究も、そしてこれらすべての文脈であるキリスト者人生自体も、既にキリストにあつて神の子らとされたる者が最後まで希望の内に忍耐して究極の勝利・栄光化に至るためにこそなされるものであることを、確信し、確認させられる次第である。

(いちかわ・やすのり)日本キリスト改革派千城台教会牧師、前神戸改革派神学校校長

(A5判・二〇〇頁・定価四一八〇円・教文館)

ドイツ敬虔主義著作集 全10巻

【第一回配本】 本邦初訳



⑧ エーティンガー 喜多村得也(訳) 「聖なる哲学」 キリスト教思想の精選集

信仰の根底は、神の言葉としての聖書！
十八世紀を席卷した理性万能の諸哲学や観念論に敢然と立ち向かった生命の「御言葉」に基づく哲学。 四六判上製・二八八頁・二二〇〇円

ドイツ敬虔主義著作集の刊行に際して 責任編集金子晴勇
日本では啓蒙主義の思想家ばかりが偏重され、それらと対決する敬虔主義の思想が全く無視されてきた。敬虔主義の主な作品を翻訳し、最終巻はその思想特質の研究と現代的意義を説明する。

- ご予約承り中
- 第1巻 シュベナー「敬虔なる願望」佐藤真史 金子晴勇訳
 - 第2巻 シュベナー「新しい人間」山下和也訳 第四回配本予定
 - 第3巻 シュベナー「再生」金子晴勇訳
 - 第4巻 フランケ「回心の開始と継続」姜刈晃史訳
 - 第5巻 ベンケ「ブノーム」と「歩んだ道」金子晴勇訳
 - 第6巻 ツィンツェンドルフ「福音的真理」金子晴勇訳(第一回配本予定)
 - 第7巻 エーティンガー「自伝」喜多村得也訳(第三回配本予定)
 - 第8巻 エーティンガー「聖なる哲学」喜多村得也訳(第一回配本 好評発売中)
 - 第9巻 エルステンゲン「真理の道」金子晴勇訳
 - 第10巻 ドイツ敬虔主義の研究(第一回配本 本誌)

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き/呈 (税込)

現代人の心に響く言葉が詰まった珠玉のエッセイ

〈評者〉森島 豊



凛として生きる
キリスト教教育に魅せられて
平塚敬一著



中高生のころ校長が礼拝の後に短い講話をされる機会がありました。その言葉には迫力があり、心を打つものでした。その校長が本書の著者、平塚敬一先生です。本書は先生の豊かな経験と情熱が凝縮された素晴らしい書籍です。この書評では親しみを込めて「先生」と呼ばせていただきます。

本書は、現代を鋭くとらえ、この時代に生きる人々に必要な言葉を伝えるエッセイと聖書の黙想、そして講演の三部構成です。エッセイと聖書黙想は二〇一九年一月から二〇二二年十二月まで毎月一つずつ掲載されています。この期間に社会で起きた様々な事件や出来事に真摯に向き合っています。先生はその事件に現れた社会問題の本質を簡潔かつ的確に表現し、単なる知識の提供に留まらず、聖書が語る「人間」として成長するための知恵を身につけること

に焦点を合わせています。そのため、すべての言葉が聖書の信仰に支えられ、御言葉に向き合う姿勢へと素直に導かれていきます。特に印象的なのは、東日本大震災で祖母を亡くした女子大学生への言葉です（一八六―一八七頁）。不条理を経験した彼女の心の傷に対しても、先生は聖書の物語から、まるで彼女に直接届けるかのように力強い言葉を響かせました。読み応えのある文章には心に深い感動が残ります。

先生の言葉の迫力は、ご自身の戦争体験からもたらされているように思われます。鹿児島大空襲や「ヒロシマの原爆」、無謀な作戦で奪われた若者たちの命を思い巡らし、「現実と真実を正しく見つめる鋭い感性を持たねばならない」（二二三頁）と訴えます。政治家の腐敗と倫理観の欠如、そして教育への政府の介入に対する辛辣な批評が語る

れ、教育者に向けた重要な提言も含まれます。特に講演ではこの問題の経緯を整理し、現在の教育に起こっている深刻な問題を明らかにしています。驚かされるのは時代をとらえる言葉のアンテナの広さです。古典や名著だけでなく、新聞記事や映画、歴史的人物から現代の歌手にまで幅広い引用があり、深い教養と豊かな感性を感じさせます。

本書には先生のリアルな「生」を生きる言葉が溢れています。特にお連れ合いを天に召された期間には、ある種の危機と苦難の中から生まれた言葉が、読者に大切な感覚を思い出させます。同時に、キリスト教教育に対する使命を感じさせる言葉があります。「あとがき」では次のように告白しています。「私はキリスト教学校が好きだとしか言えない。好きだというのはキリスト教学校に対して

大きな期待を持っているからだ。……キリスト教学校が日本の社会の中で役割を果たすのはこれからだと思っっている」（二三八頁）。キリスト教学校の役割に対する期待と愛情が込められた本書は、説教者や教育者にとって非常に価値のあるものです。

牧師となった先生の教え子が、毎月送られるエッセイと黙想を通して「説教する言葉を見つけた」と耳にしたことがあります。実際に、読んでいて説教したくなります。本書を読むと、今がどんな時代であるかわかるからです。現代人の心に響く言葉が詰まっており、キリスト教教育と聖書の信仰に興味のある読者にとって必読と言えるでしょう。

（もりしま・ゆたか）青山学院大学教授
（四六判・三四二頁・定価一七六〇円・教文館）

ヨベルの月刊 既刊案内

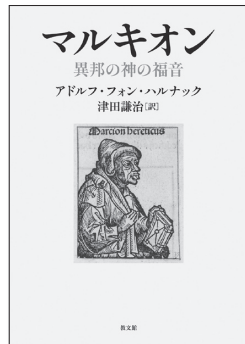
富田正樹 新型キリスト教入門 その1
疑いながら信じてる 50
四六判・一九頁・一五四円
「疑いながら信じてる」以外の信じ方って、ある？
できる？ 私は疑いながら信じています。キリスト教を信じる人たちの中には疑いなど全く抱かずに、まるっきり無邪気に信じ込んでしまっている人がいます。それはそれで結構……でもどう展開しますか、歩みますか!?

金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代
新書判・平均七三頁・各巻本体三三〇円
年内発予定
I ヨーロッパ精神の源流【既刊】
II アウグスティヌスの思想世界【既刊】
III ヨーロッパ中世の思想家たち【既刊】
IV エラスムスと教養世界【既刊】
V ルターの思索【既刊】
VI 宗教改革と近代思想【既刊】
VII 現代思想との対決【既刊】
別巻1 「アウグスティヌスの霊性思想」【新刊】
別巻2 「アウグスティヌス三位一体論」を読む

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

古代キリスト教史研究に 不可欠な古典的名著

〈評者〉片柳榮一



マルキオン
異邦の神の福音
アドルフ・フォン・ハルナック著
津田謙治訳



これは途方もない書物である。その途方もなさは、この書に描きだされたマルキオンという、古代キリスト教世界に生きた一人の「異邦人」の生に由来し、また古代キリスト教会を知り尽くした教義史の第一人者アドルフ・フォン・ハルナック（一八五一—一九三〇）がこの異端者を現代において復権しようとした意図の故である。

ハルナックによればキリスト教はその生成の始めから本質的に「混交主義」的たらざるをえなかった。「後期ユダヤ教の最も高度な表現形態であるこの宗教（キリスト教）は、その伝承と知識のすべてをキリスト教的記号によって、新しい生の概念である「信仰」の中へと受容した。このことから、この宗教は最初から著しく混交主義的な宗教であり、まさにそれゆえにカトリック的宗教であった」（二〇頁）。ここでパウロが果たした役割は重要である。「確かに

——パウロはすでに、部分的には寓意的解釈という手段を通じて、また部分的には歴史哲学的な考察を通じて、人類の教育と、救済に不可欠な和解という思考に基づいて多数の障害を取り除き、旧来のユダヤ教の神概念から多くのものを消し去っていた。そのようにして祭儀に関する律法だけでなく、旧約聖書における多くの厄介な表現の塊も取り除かれた」（三四頁）。ハルナックによればグノーシス主義者たちも、混交主義に対して明白な宗教的感覚を対置しようとしたとする。その意味ではパウロの切り開いた路線上にあると言えよう。しかしハルナックによれば彼らは、もう一つ別の「混交主義」を導き入れたという。「グノーシス主義者たち」の中でも、キリスト自身による救済的意義から出発して、原則的にはパウロに従いながら、多くの宗教的かつ道徳的な主題を排除することによって、キリスト

教的に明白な構造を付与する者がいたのを我々は目にするのである。だがその際に、彼らは異邦の秘儀的な思弁から莫大な借用を行っていたのである」（二一九頁）。

頁）。

このような流れの線上に、しかも極端なところにマルキオンはあったが、マルキオンはそうした思弁の借用はしなかったとハルナックは考える。「『イエス・キリストの父であり、異邦なる、善なる神について』というマルキオンの宣教には、最も簡潔でありながら、すべてを包括する表現が見いだされる。この神は自らにとって全く異質で、悲惨な状態にある人間を、最も強力な束縛から——信仰によって永遠の生へと救い出すのである。この宗教の逆説性、明白な力、救済としての排他的な特性がそこに要約されている」（二三五頁）。この異邦なる神というマルキオンの認識は結論を引き出す。「したがって、キリストの姿で人間の前に姿を顕す以前に、真理において神であり救済神が、いかなるあり方でも顕現しなかったということは、その救済の性質から求められているのである。それゆえ、絶対的に異邦の存在としてのみ、この方は理解されなければならない。しかしこのことから生じるのは、キリストの救済によって解放されるべき、敵意に満ちたものは、この世界とその創造者それ自体にほかならないということである」（五二

一九世紀ドイツの自由主義神学の代表者の一人としてハルナックはマルキオンの意義に思いを潜めて、鋭く語る。「マルキオンは、福音を純粹なものとして保持できるようにするために、旧約聖書を誤ったものとして、神に背く書として拒絶しなければならなかった。この『拒絶』は今日においては重要ではない。むしろこの旧約聖書という書物は、正典としての權威をもつことによってではなく、それが取り除かれることによって初めて、その価値がその独自性と意義（預言者たちの）において、至る所で認められ、評価されるであろう」（二八八頁）。

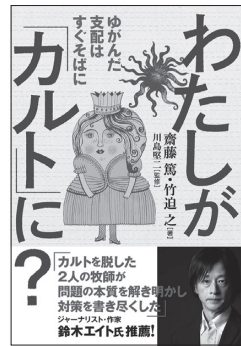
ハルナックがその著『マルキオン』において提起したマルキオン復権の問題は今なお巨大な問いかけとして私たちの前に聳え立っている。

（かたやなぎ・えいいち＝聖学院大学客員教授）
（A5判・三二二頁・定価五〇六〇円・教文館）

13

最前線の専門家による処方箋 有益な入門書かつ実務書

〈評者〉 紀藤正樹



わたくしが「カルト」に?
わがんだ支配はすぐそばに
齋藤 篤、竹迫 之著
川島堅二監修



昨年7月8日の安倍元首相襲撃事件はバンドラの箱を開けた。事件の背景にある世界平和統一家庭連合（統一協会）には、霊感商法や高額献金などの資金獲得活動、正体を隠した伝道活動、合同結婚式への参加勧誘、宗教2世への児童虐待、貧困などの家族被害、政治への浸透と癒着、海外への資金の持ち出しなど多数の問題があること、そして諸外国でも問題が共通し各国が相応の対策を取っていることなどが大きく報道された。

その結果判明したことは、日本だけがカルト対策に遅れをとっているという現実であった。

ものみの塔聖書冊子（エホバの証人）信者の両親に輸血を拒否され10歳の子どもが死亡するという痛ましい事件が起きたのは1985年、統一協会信者の霊感商法問題が最初に大きく報道されたのも1980年代である。日本は1

995年には地下鉄サリン事件も経験した。世界を震撼させたこの事件を受け、米上院議会は1995年10月に議会報告書を作成し、フランスも同年12月に国民議会報告書をまとめ2001年には反セクト法を成立させたが、日本ではサリン事件がなぜ起きたのかの検証すら国会で行わず、そのためカルト問題に対する抜本的な対策を講じず現在に至っている。

オウム真理教、詐欺で摘発された明覚寺（1995年）、法の華三法行（1999年）はいずれも正体を隠した伝道や経済活動をおこなった統一協会の手口を模倣していたが、こうした模倣先は次々と摘発された。しかしサリン事件当時から、既にカルト的な宗教団体と評されてきた統一協会には放置され、結果、霊感商法や2世被害など、この間に甚大な被害が生まれた。

いわゆる「空白の30年」に、なぜ統一協会やエホバの証人の問題を解決できなかったのか。本書は、このような日本の状況に、最前線に立つ専門家からのカルト問題への処方箋ともいえる待望の書である。

日本基督教団の齋藤篤、竹迫之両牧師がその大部分を執筆した。齋藤牧師は元エホバの証人、竹迫牧師は元統一協会の信者として、自身の体験を踏まえ被害者救済を実働でおこなう現役の牧師であり、日本基督教団カルト問題連絡会の世話人の立場にある。

本書は、両牧師のカルト被害者救済に関わる動機から始まり（プロローグ）、カルト問題の実相（I部）、カルトの意味や定義（II部第1章、2章）、カルトの問題と切り離して語ることのできないマインド・コントロールとその後

遺症の問題（同第3章）、カルト対策と課題（III部）まで、カルトの問題をわかりやすく解説する。監修の東北学院大学教授の川島牧師は1995年にオウム真理教事件の反省を受け設立された日本脱カルト協会の創設時のメンバーの一人であり、同協会の顧問をつとめる。

三者が結集して編まれた本書はカルト問題に現に苦しむ被害者やその家族、カルト問題に触れた経験がない一般人々、そしてカルト対策に取り組む政府や実務関係者にとり、きわめて有益な入門書であり具体的な実務書である。必携の書として読んでほしい。

（きとう・まさき 弁護士、『マインド・コントロール』（アスコム）（四六判・一三六頁・定価一六五〇円・日本キリスト教団出版局）

旧新約聖書の祈りの御言葉と
ショートメッセージ

聖書の祈り31

主よ、祈りを教えてください

大島カ/川崎公平

旧約と新約から祈りの言葉を1日にひとつずつ取り上げ、わかりやすい解説を付けて31日分を取る。1日10分、この本を静かに読んで、心を高く上げる。そんな毎日を始めませんか。

●四六判 並製・144頁・定価1,650円

当代一流の聖書学者が、教育の根本を旧約聖書から解き明かす

人を育むみことば 教育のモデルとしての旧約聖書

W.ブルッゲマン
宮本あかり 訳

私たちは聖書からキリスト教教育をどのように語ることができるのか。その問いに対して著者は、旧約聖書（トラー、預言者、諸書）の正典化のプロセスこそがその大きなヒントになる、と述べる。

●A5判 並製・240頁・定価3,960円

「礼拝と音楽」人気連載「礼拝とシンボル」を加筆し単行本化!

シンボルで味わう 典礼・礼拝

宮越俊光

キリスト教の典礼・礼拝は多くのシンボルで彩られている。諸教派の典礼・礼拝で用いられる所作、司式者の服装、祭具、典礼色や数字などの由来と変遷、現在の用いられ方を紹介。

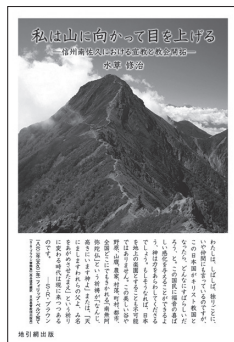
●A5判 並製・248頁・定価3,080円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

明確な神学的確信に基づく 地方伝道の実践とその結実

〈評者〉 牧田吉和



私は山に向かって
目を上げる

信州南佐久における宣教と教会
開拓

水草修治著



本書は他に類を見ないユニークな書である。確かに、本書は副題にあるように、著者の信州南佐久における二十二年間にわたる開拓伝道の苦闘と恵みの記録が中心的に記されている。しかし、単なる開拓伝道の記録ではない。本書には、著者自身の回心の証、伝道者への召し、神学校での学び、伝道者・牧師としての生き方、日本宣教を見据えた伝道論と開拓伝道の実際、それらの道程の中で一貫して模索された神学的思考と神学思想が一体化して記されている。三百頁弱の小著ではあるが、充実の書である。

本書は求道者の方々にも読んで欲しい。冒頭の「回心」の項で、自らの求道生活について、本来伏せておきたい家庭内の悲劇的出来事さえ正直に記し、自らの求道と回心の道を書きつづっている。求道者の方々にとっては信仰の決断への勇気を与えられるのではないだろうか。信仰者に

とつても、本書を通して信仰に生きるとはどういうことかを具体的に教えられるはずである。

本書は、何よりも伝道者が読むべき書である。著者は地方伝道に徹底して取り組んでいる。いわば日本伝道の根っこを見据えた伝道である。著者は神学校時代の祈祷グループ「日本福音土着化祈祷会『葦原』」について記している（五九頁以下）。この『葦原』の趣意書は特に「『農村』と称される地域への宣教のために祈りと学びを行う」ことを目的として掲げている。「『都市』中心の宣教論のみ横行する現状に対する小さなアンチテーゼ」とも記している。この志と信仰的信念に従い、著者は信州南佐久郡の小海町（当時の人口七千人）において開拓伝道を開始するのである。その伝道は困難を極める。同じように高知の西南端の地にいる評者には日本宣教を見据えた地方伝道への志も、

伝道の苦労も手にとるように理解することができる。この地方伝道の働きにおいても、単なる福音宣教の情熱にとどまらず、明確な神学的確信に基づいて取り組む。「福音を文脈化する」のは間違いであり、文脈化すべきは福音を伝える媒体である」という確信である（二三五頁）。この確信に従って、著者は「共通恩恵の器に特別恩恵である福音を載せて差し出す」ことを主張する（二二九頁）。この具体的実践は本書で豊富に披歴されている。中でも注目したのは二十二年間継続して刊行された月刊「通信小海」とその新聞折込の働きである。人口二万五千人の南佐久郡で毎月七千部を、実に二七〇号まで刊行され続けたのである。聖書の観点からの時事問題、聖書の話、家庭問題などが扱われた。著者がその地を去る前に「『通信小海』読者の会」

が開催され、実に百名を超える人たちが集まったというのである（二二二頁）。

本書は神学学徒も読むべき書である。著者は開拓伝道に伴い、神学教師の道を断念する。しかし、神学的探求を断念したわけではない。むしろ、信仰の歩みの中で、伝道と教会形成の只中で神学しつづけ、その中で神学的真理を確証して行く。著者は、本書において、自著『新・神を愛するための神学講座』（地引網出版。同書の索引も本書巻末に付録として掲載）の該当箇所をその都度指示している。神学が信仰の歩み、伝道と教会形成にしっかりと根づいている。この意味で、本書は「神学とは何か」をも教えてくれる書である。お世辞抜きで読んで欲しい書である。

（またた・よしかず 日本キリスト改革派福音教会牧師
（四六判・二七四頁・定価一七六〇円・地引網出版）



新刊 聖書学論集54

日本聖書学研究所編
●A5判並製 182頁
定価3,300円(税込)

詩篇に同じものは
二つとない
—詩篇14篇と53篇—

山吉智久

「ヤハウエの謀」

杉江拓磨

聖書ヘブライ語の状態動詞
についての意味論的考察

佐藤 潤

不思議な羊飼いや?

—アモス書3章12節の解釈と
思想的背景—

長井隆児

ヘブル書10:11-13の
構文とその釈義的意義

赤城 海

神も途上に・再考

大貫 隆

古代ユダヤ思想における
終末論と創造論

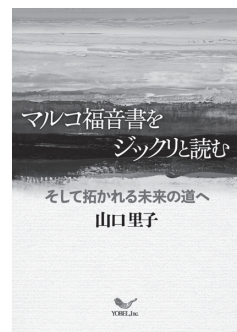
上村 静

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

イエスの肉声を感じる 共感を味わう

〈評者〉 橋 秀紀



マルコ福音書を
ジックリと読む
そして拓かれる未来の道へ
山口里子著



待望の書の刊行です。ぜひ手に取ってイエスの言葉や行動が、彼の生きた時代と場所と人々にどう受け止められたかに思いを馳せていただければと思います。本書は著者の担当した二つの公開講座が土台となっています。その一つ「日本クリスチャンアカデミーと早稲田奉仕園共催の連続講座」の一参加者である私の思いをお話することで、講座で分かち合われていること、特に著者の言う「学び合い」の豊かさ、を少しでも感じていただけたら幸いです。

私には、人として生きたイエスの実像に少しでも近づきたいという願ひがあります。活動期間はほんのわずかと言われている彼の言葉と行動が、しかも見せしめで殺された者の言動がどうしてその後も語り継がれ、二千年後の日本に生きる私まで知る所となったのか。信仰的に言えば聖書の神の計画だからということになるけれど、生身のイエス

文献に限らない諸研究や聖書学の情報、特に考古学や言語学、政治・経済・文化・社会学など様々な分野の研究成果を含む「学際的な聖書学」や「解放の神学」の情報も共有しながら、イエスの生きた時代と場所と、そこで生活していた人々の姿を描き出そうと努めることに私はとてもワクワクしました。足りなかったパズルのピースが一つずつ埋まっていくようにして、生身のイエスに近づくように思えたからです。また講座には教派の別なくクリスチャンに限らず様々な方が参加しており、そんな一人ひとりの歩んできた道や取り組んでいることを背景とした質問・意見や思いに聴き合う時間が大切にされています。本書でも脚注で参加者の声を紹介されていますが、それらの声と二千年前のガリラヤが時に重なり合うことによって、より一層イエ

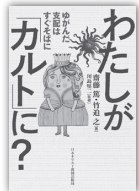
スを身近に感じられたことも度々ありました。とは言い全てのピースを埋められるとは、もちろん思っていないかもしれません。それでも一つの解釈を絶対化せず聴き合うという著者の「学び合い」のスタンスが、たとえば聖書に名前さえ記録されなかった人にも確かに届いたはずのイエスの肉声を、かえてリアルに感じさせてくれると私は思うのです。同時に、今の時代と場所に生きる私たち一人ひとりにも届いているはずのイエスの声にも気づかせてくれると感じているのです。さあ本書を通してこの学び合いの場に、あなたも参加してみませんか。そしてあなたの所にも、豊かな学び合いの場が生まれることを願っています。

(たちばな・ひでとし 日本基督教団水戸教会牧師)
(A五判・三二八頁・定価二七五〇円・ヨベル)

わたしが「カルト」に？

ゆがんだ支配はすぐそばに

齋藤 篤
竹迫之
川島堅二 監修



誰もがカルト化する可能性とは？
カルト脱会者で、カルト被害者支援に携わる牧師2名が、カルト問題の現状、カルトの基礎知識、被害防止の対策などを丁寧に指南する。
四六判・136頁・定価16500円

本書を推薦
します



鈴木エイト
(ジャーナリスト・作家)

I 遠藤周作 遠藤周作 その人生と『沈黙』の真実

山根道公



『沈黙』執筆に至る経緯、各登場人物の魂のドラマを読み解き、『沈黙』という作品の真実に迫る。生誕百年を記念して改訂復刊。
A5判・400頁・定価4840円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyouto@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

限界を超えて、試行錯誤しながら
「心の中の敵」と対峙する信仰生活

〈評者〉 川上直哉



「敵」に居場所を与えるな
あなたの人生を変える
—詩編23編からの発見
ルイ・ギグリオ著
田尻潤子訳



「日本の教会は、博物館のようです。」

米国の教会を訪問した時のことを振り返って、ある古老の牧師が語っていました。もう、数十年も昔のお話です。日本の教会を設立してくれた米国の教会を訪問し、交流し、今の日本の教会の様子を説明した時の事。日本の礼拝のプログラムを見て、米国側の方が、驚嘆の声を上げたそうです。「150年前の私たちの礼拝が、そのまま、ここに残されているのですね」と。

それから数十年が経ちました。でも、きつと、日本の教会の礼拝式次第は、あまり変わっていないように思います。もちろん例外はあるでしょうし、「コロナ」もあったのです。でも、たぶん、「博物館」の陳列品のような礼拝を、私たちは続けている可能性がある。

本書は2008年に米国アトランタで始まった新しい教

から自分に向かつて矢が飛んでくるような感じだ。：50歳にもなって、私は自分の限界を試されているかのような問題に直面したのだ。／現実のものとなった内部対立は強烈で、個人的なものもあった。苦痛とストレスが心に居座りつけている様だった。この状態で教会をやる意味なんてあるのか。さっさとたんでしまった方がいいのではないかと、と何度も思った。これが、本書の冒頭のことばです。

そのように現代米国で悩む等身大のクリスチャンが、「詩編23編」を手がかりに踏みとどまり、再び立ち上がる中で紡がれた言葉が、本書になっています。「正解」のない現実を前に、聖書の言葉と向き合い、自分たちの世代まで伝えられてきた基本的な理解を咀嚼しなおしながら、自分たち（つまり、現代米国人）にとってじっくりくる言葉で語りなおして行く。その積み重ねが本書でした。

著者は時に、自分たちを育てた「信仰のことば」が自分を苦しめていることに気づき、それを語りだします。「嫌なことが起こるたびに『サタンの仕事だ』などと思いつままないように。朝、さあこれからマイカーで出勤だ、でもエンジンがかからない、なんてときに『サタンをエンジンルームから追い出さなくちゃ』とは思わないだろう。必

会から発信されたものです。米国で2021年に出版された書物の翻訳です。「博物館」とはちよつと違う米国キリスト教の今の雰囲気伝えてくれる本です。

著者のルイ・ギグリオ牧師は、イタリア系の米国人で、子どもの頃から大きな教会に通っていたそうです。大学・大学院と神学校で学ぶ途中、学生の「バイブル・スタディー」運動にかかわり、その運動は全米規模に広がるものとなったそうです。20世紀から21世紀に切り替わるころのことでした。

そして、2008年、著者のギグリオさんは新しい教会を始めることとなります。その頃のエピソードから、本書は語り始めます。「誤解され、見捨てられ、傷ついていた。／妻のシェリーと私はすさまじい嵐の真つただ中にいた。：教会のリーダーとして最もつらい時期だった。あちこち

要なのはブースターケーブルだ。ただのバッテリー切れないのだから。」(93頁)。「教会の習慣の悪口を言いたいのではない。私だってその中で育つたのだから。でも、この『再出発』というものについて、現実をしっかりと、時間をかけて検証する必要があると私はあえて言いたい。：罪を犯した後『これから変わる』とあなたは約束する。歯ぎしりしながら神のゆるしを乞う。そして次回から変わると言うでも、また転んでしまう。：これには大きな危険がある。『再出発』を何度も繰り返してたどり着く先は絶望だからだ。：これであまりにも多くのクリスチャンがクリスチャンをやめたくなくなってしまうのだ。」(108頁以下)。

宣教師から伝えられた線を墨守する限界は、もうはつきりしています。でも、急には変えられない。そんな私たちに、本書は「こんな試行錯誤もありますよ」と知らせてくれる。そんな一冊になっていたと思います。

(かわかみ・なおや 日本基督教団石巻栄光教会主任担任教師)
(四六判・二四〇頁・定価一八七〇円・ヨベル)

グノーシス主義研究の 回顧と展望

〈評者〉 荻野弘之



グノーシス研究拾遺
ナグ・ハマデイ文書から
ヨナスまで
大貫 隆著



グノーシス主義 (Gnosticism) とは『本のひろば』の読者であれば、仄聞した方もおられよう。これは一七世紀に遡る造語 (Henry Moore) で、一―三世紀にかけて東地中海地域で発生した、キリスト教の播籃期における「最初の異端」として言及されることが多い。グノーシスとは元来「知識・認識」を意味するギリシア語で、「自分とは何者か」についての根本的洞察こそが、現世を超越した救済の到来を約束する。その意味では、梵我一如のウパニシャッド以来、東西に広く見られる宗教的認識⇨救済論の一類型ともいえよう。そしてこの奥義を告げる者こそが、真の啓示者なのである。ただし教父たちからすれば、それは「誤って〈知識〉と称されている」謬説に過ぎず、またウアレんティノス派、バシレイデス派、オフィス派など、様々な分派を含んだ複雑な様相を呈している。

約研究にとつて不可欠な関係にあるとする信念から、この二つの領域を架橋する研究が続けてきたが、これは必ずしもすべての聖書学者に共有されている立場とは限らない。この点が説得的でありうるかは、読者各自による検証に委ねられた、本書全体の通奏低音である。

著者のグノーシス研究は四つの側面から整理されよう。

(一) 「ナグ・ハマデイ文書」の翻訳と註解。一九四五年にエジプト・ナイル川中流域のローマ時代の墳墓跡からコプト語のパピルス文書群が発掘された。いずれもギリシア原本からの翻訳で四世紀に遡り、概してその禁欲主義的な内容から近隣のパコミオス派修道院との関係が推測される。これは様々な類型のテキストを含む複雑な文書群ながら、グノーシス主義研究の一次史料として極めて重要なもの。原典から綿密な注解つきで日本語訳された(岩波書店、全四巻+補遺、一九九七年) こと自体が記念碑的な事業である。

こうした文献研究をふまえて、本書では綿密な考証にもとづく第二論文『三部の教え』における三層原理」と第三論文『トマス福音書語録七七』のアニミズム【あるいは「汎神論」(pantheism) と言ったほうがよいか?】の

こうした古代の宗教思想が、どこから生まれ、何を主張し、いかなる影響を与えたかは、実に興味深い歴史の謎に満ちている。本書は、約半世紀にわたって国内外のグノーシス主義研究を牽引してきた著者(東大名誉教授) による論文集。慎ましく「拾遺」と題するとはいえ、明快な説明と(文献的註を含む) 学術的な水準とを兼備した堂々たる論文集である。グノーシス主義に興味をもつ初学者にとつても、格好の道標となるだろう。

とはいえ、グノーシス文書が一般読者の目にふれる機会は多くないし、手近なところで『ナグ・ハマデイ文書抄』(岩波文庫) の頁をめくっただけでは、容易にその正体は掴みがたい。そもそも「異端思想」であるならば、キリスト教徒がまともにつき合う意味がどこにあるのか疑問にも思えよう。新約学者でもある著者は、グノーシス研究が新

二つの論稿が収録されている。原初の神々の系譜を饒舌に語るグノーシス神話を整理し、構造化してみせる周到な説明は、まさしく考古学の発掘現場に立ち会っているかのような知的興奮を覚える。

(二) 第四論文「ストアの情念論とグノーシス」は、同じくそこから派生する研究で、著者が最初に手がけた文書『ヨハネのアポクリュフォン』と『ゾーロアストロス』の書を中心に、「動揺なき状態の知覚」(一一九頁) という独特の表現をめぐってグノーシス主義に特徴的な「禁欲主義」の来歴を探ろうとする。独語の著書『グノーシスとストア』(一九八九年) の一部を敷衍する形で紹介される本格的な思想史研究である。

まずは神話テキストを渉猟して、「現世の牢獄」たる身体全体に宿る悪霊たちの抱く様々な情念が、カタログ化して整理される(二〇四頁)。その上で著者は、こうした神話的情念論の背景に、ストア学派の哲学的情念論の影響を想定する。古ストア派は「蝟の足」のようにイメージされる魂の八区分説を提唱し、また鳥の羽搏(はばた)に譬えられる、魂の過剰な運動による「誤った判断」として四つの類的情念(恐怖、欲望、苦痛、快樂)を設定し、さらにこれらの混合によって多種多様な情念を説明した。第三代学頭クリュ

シッポスは何と七〇種ほどの情念を分類したとも伝えられる。

ただし折衷主義が進行する時代に「古ストア派」として一括される情念論のどの段階を反映しているのかは難しい。「情念の有益性」をペリパトス派とだけ結びつける点をはじめ(二一七頁)、哲学的概念の影響関係史を見積もる点については、依然として多くの課題が残っていると思う。

(三) 本書の中では言及される機会が少ないが、著者は「ナグⅡハマディ文書」以前の研究段階における主要史料であった教父著作の翻訳(エイレナイオス『異端反駁Ⅴ』、ヒッポリュトス『全異端反駁』いずれも「キリスト教教父著作集」教文館)という地味な仕事にも尽力された。正統信仰の側との葛藤や影響は、その精密な史料批判が求められることは言うまでもない。またこうした古典作品の翻訳は隣接分野の教父研究にとっても計り知れない便益を齎すことは間違いなく、同業者としての立場からも著者に深く敬意を表するものである。

(四) 第五一六論文は、文献研究からやや離れて、グノーシス主義の物語論、神話論、解釈学を扱った論稿である。それはハンス・ヨナス『グノーシスと古代末期の精神』(全二冊、ぶねうま舎)の翻訳にもとづく研究でもあ

る。齋す以上、神話を読む行為が啓示と等置されるのだ(三一七頁)。著者はこの先をさほど展開していないのだが、書評子には、『ヨハネ福音書』のイエスの語り口に酷似しているように思われてならない。

そして本書第一章「私のグノーシス研究」の中では、留学中の体験談などを交えて、著者自身について語り出している。ここにも自己言及的な啓示の構造が反映している。見るのは、いささか深読み過ぎるだろうか。

グノーシス主義はキリスト教内部で生まれて正統から分派した異端というよりも、本来は独立の宗教的世界観が、中期プラトン主義、ユダヤ教の終末論的黙示文学、イランの伝統的な善悪二元論などと混淆して変成をとり、それが地中海世界で形成途上にあつたキリスト教を含む諸宗教に寄生的な形態をとつた例が多い。

自分とは何者か。それはまさに至高神と同一の本質を宿す高貴な存在なのだ。ただし至高神と現世の創造神(ヤルダバオト)は全く捻じれた関係にあり、この世界は、高貴な存在である自己の出自を忘却させるべく巧妙に仕組まれた牢獄なのである。

とはいえ、こうした世界観を語る神話は、熱帯の密林に

る。グノーシス研究の先駆者の一人ヨナスは『グノーシスの宗教』(秋山さと子・入江良平訳、人文書院)で、東西の類型の相違を導入したことで名高く、また最近では「世代間倫理」の提唱者として環境倫理学からの関心を惹いている。もつとも『グノーシスと古代末期の精神』(独語一九三四年初版)には「神話的グノーシス」と「哲学的・神秘主義的グノーシス」を区別するなど、ハイデガーによる実存分析の手法の影響を残した解釈学的論点がいくつか埋め込まれている。

第五論文「グノーシスの変容」では、こうしたヨナスの物語類型の違いの延長線上に「プロティノスは『ゾーストリアノス』の何を拒絶するのか」という問いが立てられる(二七〇頁)。神話による原因譚が神学Ⅱ形而上学的な語り方に置き換わると、「現世における悪の起源」と精神に対する物質の位置づけはどう問題化されるのか。四世紀以降のキリスト教的「新」プラトン主義とグノーシスは何を共有し、どこで袂を分かつか、という問いでもある。

第六論文では『ヨハネのアポクリュフォン』の中盤、語り手(キリスト)が自分の語っている神話の中に登場して、自己自身に(ただし三人称で)言及している、という奇妙な場面に注目する。神話の語り手が話の中に出現して啓示

踏み込んだような雑然とした多神教の神々の名前、意味不明の呪文的文言に充ちている。また楽園の蛇やイエスなど旧新約聖書でお馴染みの人物が、全く反転した役柄を演じるなど、陰画のような奇妙な既視感を呼び起こす。複雑怪奇ともいえる宗教思想は、現世に対する否定的な世界観全般を理解するうえで、重要な示唆に溢れている。

本書の論述は、明快な主張と、それを支える膨大な考証、方法論的反省とからなる。コプト語の語句の説明や専門的な研究文献への言及もあり、決して平易とはいえないが、学問的・実存的な誠実さに裏打ちされていることは間違いない。

(おぎの・ひろゆきⅡ上智大学文学部哲学科教授
四六判・三六八頁・定価二七五〇円・ヨベル)

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_systen_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 靴紐センター・イマワ	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待望堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新小川町9-1日キ殿内(外観専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.digitar.jp/~yokohama/sbs.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00560-8-51419	
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市昭和区16日本キリスト教団藤森社	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-inei.or.jp/people/kyotan/	kyotan@mbox.kyoto-inei.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ瀬町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_107/index.html	sksch@doki.doki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacts.net	info@okinawacts.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2023年6月～2023年7月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
立石章三	ジュニアのための キリスト教教理問答	A5	128	1,320	一麦出版社	6/2
工藤マナ	キリストの愛とともに —愛する人に伝えるために—	A5 変	128	1,980	一麦出版社	6/8
袴田康裕	コリントの信徒への手紙 二講解〔上〕—1-5章	四六	260	2,860	教文館	6/7
山本通	チョコレートのイギリス史 —企業フィランソロビーの源流	四六	230	2,970	教文館	6/21
アウグスティヌス著/ 河野一典、松崎一平訳	アウグスティヌス 著作集20/II—詩編注解(6)	A5	962	12,100	教文館	6/23
前川裕	ウィリアムス神学館叢書VI 今さら聞けない!? キリスト教 —古典としての新約聖書編	A5	260	2,200	教文館	6/23
大貫隆	グノーシス研究拾遺 —ナグ・ハマディ文書からヨ ナスまで	四六	368	2,750	ヨベル	6/19
山口里子	マルコ福音書をジックリと読む —そして拓かれる未来の道へ	A5	328	2,750	ヨベル	6/21
松下景子	語らいと祈り —信仰の12ステップに取り 組んだ人々の物語	四六	176	1,650	ヨベル	6/23
青山学院宗教 主任会編著	今日と明日をつなぐもの —SDGsと聖書のメッセージ	四六	128	1,430	日本キリスト 教団出版局	6/22
齋藤篤、竹迫之著 /川島堅二監修	わたしが「カルト」に? —ゆがんだ支配はすぐそばに	四六	136	1,650	日本キリスト 教団出版局	6/23
山根道公	遠藤周作探究 I 遠藤周作その人生と『沈黙』の真実	A5	400	4,840	日本キリスト 教団出版局	6/23
及川信監修/及川 信、伊藤慶郎、ハリン・ イリヤ、小野貞治著	日本正教史 —幕末から現代まで	A5	442	5,500	教文館	7/5
平塚敬一	凜として生きる —キリスト教教育に魅せられて	四六	342	1,760	教文館	7/19
イグナチオ・デ・ロヨラ 著/川中仁訳・解説	霊操	四六	176	1,100	教文館	7/25
日本聖書学研究所編	聖書学論集 54	A5	176	3,300	リットン	7/10
寺園喜基	カール・バルト 《教会教義学》の世界	四六	360	3,080	新教出版社	7/11
岩本遠億	神はあなたの真の願いに答える —ルカの福音書説教集 1	新書	216	1,320	ヨベル	7/20
上田光正	カール・バルト入門 —21世紀に和解を語る神学	A5	176	2,640	日本キリスト 教団出版局	7/24
ヘンリ・ナウエン、ウォル ター・ガフニー著/原み ち子訳/木原活信解説	ナウエン・セレクション 老い	い 四六	144	1,980	日本キリスト 教団出版局	7/25

福音と世界

2023年10月号

特集 飢餓と食物

寄稿者 植木献、飯尾裕光、倉井美彦、竹之内裕文

エッセイ・レイモンド・荒谷明子、福嶋揚

好評連載 八木重吉の聖書（今高義也）、私は告白する、私の神を（長尾優、地域から考える在日朝鮮人史と教会史（金耿晃、グレート小林と三人の女（飯田華子）、神と「女性的なるもの」を辿って（後藤里菜）、古代イスラエル文学史序説（勝村弘也）ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編

「私は紙の本を憎んでいた」

芥川賞受賞作『ハンチバック』（市

川沙央著／文藝春秋）の中の一文だ。

重度の身体障害を持つ当事者である

著者が、自身とも重なる女性を主人

公にその生活と感情を描き話題と

なった。一読し、障害の有無を問わず現代人が生きる上で

襲われる虚しさの数々が胸に迫り、その中で揺らぐ生命の

価値について考えさせられた。しかし何よりつくづくと感

じたのは、この社会、特に日本社会がいかに健常者のみを

前提として動いているかということだ。

特に作中で主人公が訴える、本と読書行為への批判が強

く印象に残った。冒頭はそのくだりの一節だが、そこで彼

女は「目が見える、本が持てる、ページがめくれる、読書

予告

本のひろば

2023年11月号

本・批評と紹介

（書評）大沼隆著『困惑を超えるもの』、袴田康裕著『コリントの信徒への手紙二講解（上）』、山本通著『チョココレートのイギリス史』、前川裕『今さら聞けない!?キリスト教 古典としての新約聖書編』、ジョン・H・ウェスターホフ、W・H・ウイリモン著『ライフサイクルと信仰の成長』、上田光正著『カール・バルト入門』、平野克己他著『三要文深読 使徒信条』他

姿勢が保てる、書店へ自由に買いに行ける」の五つを、読書が要する身体の「健常性」として挙げています。「出版界は健常者優位主義」とまで言い切るその痛烈さに驚くよりも納得してしまったのは、少なからず思い当たることがあったからだ。視力が落ちれば文字を追うのがつらくなるし、ハードカバーよりも軽く小さい文庫本のほうが手に取って扱いやすく感じる。こうした経験は障害のある人たちが抱える不便さの比ではないと思うが、紙の本には確かに物理的な制約がある。本に詰まっている情報と知識を全ての人に届けるためには、「本」そのものを根本から考え直す必要があることに気づかされた読書体験だった。

あと、小説の終盤にはエゼキエル書からの引用があり、現状への荒ぶる怒りを感じて筆者はちよつとスカツとした（著者の真意はわかりませんが……）。（豊田）

『沈黙』『深い河』『侍』など、心に響く珠玉のことばが、いまよみがえる



遠藤周作 366のことば

山根道公
監修

今なお多くの読者を魅了する作家・遠藤周作。長年遠藤文学を研究してきた山根道公氏監修のもと、一年を通してそのことばに触れることができるよう、文学やエッセイから366の珠玉のことばを厳選して収録。美しいイラストもちりばめられ、プレゼントに最適な一冊。



◆四六判 並製・160頁・定価1,980円 2023年9月25日刊行予定

姉妹編 好評発売中

『三浦綾子366のことば』

森下辰衛=監修 松下光雄=監修協力 定価1,650円

知恵文学の『箴言』から贈る、人生を豊かに生きるためのメッセージ31編



これからを生きる あなたへ 小林よう子 聖書の知恵 箴言31日

「主を畏れることは知識の初め。」にはじまる『箴言』の全31章の各章から選句し、人生を豊かに賢く生きるためのメッセージを贈る。キリスト教学校の生徒や、成人式や進学・就職、結婚など、人生の転機を迎える人たちへのプレゼント本としてもおすすめ。

2023年9月25日刊行予定

◆四六判 並製・80頁・定価1,320円

新約聖書の時代

アイデンティティを模索するキリスト共同体 浅野淳博 著



イエス、パウロ、そして初期のキリスト共同体は、どのような時代と社会を生き抜いたのか？ そしてこの歴史を学んだ者として、私たちはいかに今を生きているのか？ 未来への羅針儀となる第一級の歴史書であり、豊富な図版によって見ても楽しい新約聖書時代史入門。

● 四八判・上製・484頁・定価4,620円

修道院からモダニズムへ

ドイツ手工芸職人の精神と系譜

浅野忠利 著



ゲルマン民族は古典古代とキリスト教の伝統を受容し、高い倫理性と合理性を基軸として、西欧文明の形成を担ってきた。マイスター制度のもとで知と技を現在まで伝承した手工業職人たちの試練に満ちた軌跡を辿り、新たなヨーロッパの姿を描出する探究。

● A5判・上製・332頁・定価2,750円

9月の新刊 (価格表示は税込)

21世紀の旧約聖書
神学の決定版！



旧約聖書神学

歴史批判的研究は、旧約聖書テキストの多声性をどのように解明するのか？ その発展的加筆の跡には、イスラエルのいかなる神学的変遷を辿ることができているのか？ 現在のスタンダードな研究成果を一望する、研究者・学習者に必読の書。

● A5判・上製・608頁・定価8,140円

小友 聡 監訳 K・シユミット 著
日高貴士 耶 訳

オンデマンド版復刊

ユダヤ古典叢書

ミシュナ I ゼライーム

石川耕一郎 / 三好 迪 訳



『タルムード』の中核をなすユダヤ教口伝律法の集大成(全6巻)。ユダヤ人が畑や家庭、エルサレム神殿で、また、週日や安息日、祭日に、どのように行動すべきかという、日常生活全般にわたる具体的な規範である。ユダヤ教やユダヤ人を理解するための基本的文書。第1巻にあたるゼライーム(種)では、祈禱のささげ方に始まり、貧者への福祉、農業規則などを取り扱う。

● A5判・上製・420頁・定価8,030円

オンデマンド版、好評発売中！

観想的な生活・自由論

アレクサンドリアのフィロン 著 土岐健治 訳

● A5判・上製・170頁・定価5,280円

世界の創造

アレクサンドリアのフィロン 著 野町啓 / 田子多津子 訳

● A5判・上製・160頁・定価5,280円

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一三年一〇月一日発行(毎月一回一日発行)
本のひろば 第七九〇号 二〇一三年一〇月号

発行所 〒163-8614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3311-6510 振替0017-0151-1677
発行人 金子和人 編集人 桑島大志 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3311-6510

定価七八円(税抜七二円) 63円
二年分一三〇〇円(送料共)

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549(出版部直通)《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



本のひろば.com

